

COLLECTION GALLERY

これくしょん・ぎやらりに

2006年12月13日(水) ▶ 2007年1月28日(日)

浮世絵にみる「いき」—高橋博信の眼

国貞と英泉

Allure of Ukiyoe Prints Seen through the Eyes of the Collector Hakushin Takahashi

帯広市ゆかりの高橋博信氏（1926～1997）は、特に江戸時代後期の浮世絵美人画に魅力を感じ、収集したすぐれたコレクターでした。本展では、高橋博信氏のご長男である高橋大介氏から寄贈された491点にも及ぶ浮世絵コレクションの中から、歌川国貞^{うたがわくにさだ}51点と溪斎英泉^{けいさいえいせん}26点を展示します。

これらの美人画において、中核をなすのが日本特有の「いき」の美学です。日本浮世絵協会の理事をつとめた高橋博信氏は、著作『浮世絵三昧—国貞と

英泉』や論文『浮世絵は後期にあり』の中で再三それについて論じています。「いきな黒堀^{くろべい} 見越しの松に」（お富さん）と戦後の流行歌の冒頭にもあるように、江戸庶民の美意識である「いき」は、今日の我々にとっても親しみやすいものです。

遊女や芸者、あるいは町人の娘たちが身につけていた「いき」の美意識を、美人画に描かれた庶民風俗を通して感じ取っていただければと存じます。

「いき」についてのメモ

「いき」の美意識についての研究書として最も良く知られているのが哲学者の九鬼周造 (1888~1941) 著の『「いき」の構造』(1930年)です。高橋博信もこの著作から影響を受けました。九鬼周造は「いき」について次のように結論しています。

「運命によって〈諦め〉を得た〈媚態〉が〈意気地〉の自由に生きるのが〈いき〉である」

つまり、貧困や生まれついた身分によって、身を落とさざるを得なかった女が、男に媚態を示しながらも、一種の反抗心があり、心までは奪われない意気地を持って暮らしている、その美意識が生活風俗に反映されたものが「いき」であるという考え方です。

また、九鬼周造は、同書で「いき」の反対語として「野暮」を設定しました。そして、歌麿などの浮世絵を例と

して、次のような「いき」の表現例をあげています。

- ・姿勢を軽く崩すこと
- ・うすもの(襦袢)などを身にまとうこと
- ・湯上がり姿
- ・姿がほっそりとして柳腰(やなぎこし)
- ・顔立ちは細おもて
- ・流し目
- ・薄化粧
- ・素足
- ・曲げたり反らせたりした手の表情
- ・襟足(まりあし)をみせる

出品作品の中に、このような特色をさがしてみるのも鑑賞の一方法でしょう。

歌川国貞

	作家名	作品名	制作年	元号	版型
1	歌川国貞	(奉納手拭見立) 玉や内しら玉			大判錦絵
2	歌川国貞	(奉納手拭見立) 鶴屋内かしく			大判錦絵
3	歌川国貞	新板錦絵 当世美人合 三升きどり			大判錦絵
4	歌川国貞	(川辺の蛭狩り)			大判錦絵 三枚続
5	歌川国貞	今世と計十二時 巳ノ刻 日ノ四ツ時			大判錦絵
6	歌川国貞	今世と計十二時 午ノ刻 日九ツ時			大判錦絵
7	歌川国貞	今世と計十二時 寅ノ刻 夜七ツ			大判錦絵
8	歌川国貞	江戸八景ノ内 愛宕			大判錦絵
9	歌川国貞	江戸名所 梅屋舗の図			大判錦絵
10	歌川国貞	化粧三美人 (お歯黒)			大判錦絵
11	歌川国貞	御詠当世好 (厚板)			大判錦絵
12	歌川国貞	風流六ヶ仙 大伴乃黒主			大判錦絵
13	歌川国貞	(奉納提灯見立) あふら屋そめ			大判錦絵
14	歌川国貞	(奉納提灯見立) 八百屋お七			大判錦絵
15	歌川国貞	江戸自慢 仲の町燈籠			大判錦絵
16	歌川国貞	江戸自慢 真崎みそぎ			大判錦絵
17	歌川国貞	江戸自慢 両国夕涼			大判錦絵

	作家名	作品名	制作年	元号	版型
18	歌川国貞	江戸名所 飛鳥山の図			大判錦絵
19	歌川国貞	思事鏡写絵 (囲われ者)			大判錦絵
20	歌川国貞	思事鏡写絵 (付け文)			大判錦絵
21	歌川国貞	極彩色時世仕立 (立ち読み)			大判錦絵
22	歌川国貞	時世江戸鹿子 薬研堀			大判錦絵
23	歌川国貞	時世江戸鹿子 白銀の清正公			大判錦絵
24	歌川国貞	当世江戸鹿子 堀ノ内			大判錦絵
25	歌川国貞	当世三十式相 しばいが見た相			大判錦絵
26	歌川国貞	当世三十式相 たてひき相			大判錦絵
27	歌川国貞	(不動尊揃) 大山不動尊			大判錦絵
28	歌川国貞	(不動尊揃) 目白不動尊			大判錦絵
29	歌川国貞	(音曲提灯) にあかり			大判錦絵
30	歌川国貞	(音曲提灯) 本てうし			大判錦絵
31	歌川国貞	春交加 白酒			大判錦絵
32	歌川国貞	吉原七小町 あらゐ小町			大判錦絵
33	歌川国貞	吉原七小町 関寺小町			大判錦絵
34	歌川国貞	(近江八景 矢橋帰帆)			大判錦絵
35	歌川国貞	御詠絵馬尽 深川八幡の額ノ内 さゐく物			大判錦絵
36	歌川国貞	当世美人合 (姉様人形髪結い)			大判錦絵
37	歌川国貞	当世美人合 (合せ鏡)			大判錦絵
38	歌川国貞	当世美女吾妻風景 王子の午の日参			大判錦絵
39	歌川国貞	見立八景 ぎやう水の夕照			大判錦絵
40	歌川国貞	当世美人合 身じまい芸者			大判錦絵
41	歌川国貞	当世美人合 かこゝる			大判錦絵
42	歌川国貞	本朝風景美人競 紀伊和歌浦			大判錦絵
43	歌川国貞	本朝風景美人競 大和吉野			大判錦絵
44	歌川国貞	四季ノ内 冬			大判錦絵
45	歌川国貞	美人合 (子供と遊ぶ立美人)			大判錦絵
46	歌川国貞	歳暮の深雪			大判錦絵 三枚続
47	歌川国貞	江戸名所百人美女 根岸	1857	(安政4)	大判錦絵
48	歌川国貞	江戸名所百人美女 新吉原満花	1857	(安政4)	大判錦絵
49	歌川国貞	江戸名所百人美女 あすかやま	1857	(安政4)	大判錦絵
50	歌川国貞	江戸名所百人美女 芝神明	1857	(安政4)	大判錦絵
51	歌川国貞	江戸名所百人美女 かやば町	1857	(安政4)	大判錦絵

溪斎英泉

	作家名	作品名	制作年	元号	版型
52	溪斎英泉	青楼四季之姿会 松葉屋粧ひ			大判錦絵
53	溪斎英泉	花の宵 姿の春雨			大判錦絵
54	溪斎英泉	新吉原八景 狎客の夜の雨 尾張屋内ゑにし			大判錦絵
55	溪斎英泉	新吉原八景 日本堤の落雁 玉屋内玉櫛			大判錦絵
56	溪斎英泉	新吉原八景 楼上の秋の月 丸海老屋内江川			大判錦絵
57	溪斎英泉	東都呉服屋三幅対 ゑひすや			大判錦絵
58	溪斎英泉	浮世四十八手 あだに取組手			大判錦絵
59	溪斎英泉	御利生結ぶの縁日 比沙門天			大判錦絵
60	溪斎英泉	今様美人拾二景 高名輪 うわきそう			大判錦絵
61	溪斎英泉	今様美人拾二景 深川すさき弁才天 おてんばそう			大判錦絵
62	溪斎英泉	今様美人拾二景 不忍弁天 しづかそう			大判錦絵
63	溪斎英泉	よしはらやうじ廓の四季志 二月 大神楽 尾張屋内長尾			大判錦絵
64	溪斎英泉	当世好物八契 (かるた)			大判錦絵
65	溪斎英泉	当世好物八契 けん酒			大判錦絵
66	溪斎英泉	当世好物八契 (ひな人形)			大判錦絵
67	溪斎英泉	廓中八契 玉屋内花紫			大判錦絵
68	溪斎英泉	諸国名勝くらべ むらさきの一もと 上州倉ヶ野 四ツ谷			大判錦絵
69	溪斎英泉	美人会中鏡 時世六佳撰 (湯上がり美人)			大判錦絵
70	溪斎英泉	美人会中鏡 時世六佳撰 (盃を持つ芸妓)			大判錦絵
71	溪斎英泉	今様美女競 辰巳			大判錦絵
72	溪斎英泉	婦嬬の雪 伊豆の伊藤ふじ			大判錦絵
73	溪斎英泉	(湯がえり)			大判錦絵 縦二枚続
74	溪斎英泉	当世廓風俗 岡本屋内豊岡			大判錦絵
75	溪斎英泉	江戸の松名木尽 五本松 本所			大判錦絵
76	溪斎英泉	吉原八景 瀬田之夕照 丸海老屋内江川			大判錦絵
77	溪斎英泉	当世まつの葉 傾城音羽滝 新内ふし			大判錦絵